

2017年1月  
1115号

# 万葉

Manyo

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町5

(一冊の会研究室)

レソト王国とのさらなる友好が深まった1年  
～様々なネットワークとつながり前へ進もう～

レソト王国国王王妃両陛下歓迎晩餐会と二葉学園視察・東北視察の大成功で2016年のフィナーレを飾り、新しい年を迎えました。昨年12月の櫻華塾では、INPS JAPANの浅霧理事長が作成してくださった第22回FAWA(アジア太平洋国際女性連盟)、国王王妃両陛下歓迎晩餐会、東北視察の動画を皆で鑑賞し、尾崎記念財団、INPS JAPANそして一冊の会が協力し共に前へ進むことを確認いたしました。今年は酉年、さらに飛躍する1年といたしましょう。

1月15日に開催した第12回櫻華塾では、大槻会長から改めて国王王妃両陛下のおもてなしは国威をかけて行ったものであり、二葉学園及び東北被災地の視察も含めハプニングが相次ぎましたが、会員の皆の協力により成功し、外務省からもお褒めのお言葉頂いたとの報告がありました。そして、何とレソト王国臨時代理大使のヤングネ氏が、櫻華塾開催中の会場である尾崎行雄記念財団応接室までわざわざお越しになり、お礼の言葉を頂戴いたしました。

「こんにちは、レソト王国大使館、政府、そして国民を代表して、昨年11月、レソト王国国王陛下及び王妃陛下の訪日において両陛下を盛大に歓迎して下さった一冊の会の皆様、そして全ての関係者様に心から深く感謝を申し上げます。今日ここに招かれ、こうしてスピーチを述べる機会を頂いたことは、レソト王国と一冊の会との間の友情がより一層強まっている証だと私は信じております。



レソト王国ヤングネ臨時代理大使(左は通訳の方)

皆さまもご承知の通り、あのような会は一晩で起こるものではありません。事が動き始めたのは、両陛下訪日の数か月前でした。この大事な会のために綿密な計画や準備を求められました。一冊の会会長を始め全ての関わった方々が、共通した使命を良く理解され、一生懸命に支援して下さいたのはとても幸運なことでした。

両陛下は、皆さまが目黒雅叙園で開いて下さった歓迎晩餐会で初めて日本の食べ物、踊り、そして音楽を体験することが出来て大変喜ばれていました。まるで何年も練習してきたかのように完璧にレソト国家を歌って下さった方々には感銘を受けられました。

また、2011年に大きな地震と津波に襲われた仙台市と相馬市への両陛下の訪問を実現させるために、労を惜しまず準備をして下さった事に私たちは、会長を始めとする関係者様に一生感謝し

ます。両陛下は訪問の際に、被災者の方々と会話を交わし、彼らから直接お話しを聞き、被災からもう数年が経った今も残る爪痕に胸を打たれたとおっしゃっていました。

レソト王国は、南アフリカ共和国に囲まれた国で、15カ国で構成された地域経済共同体である南部アフリカ開発共同体（SADC）の一員です。SADC地域は、世界で最も経済が急成長している地域で、サブサハラアフリカ（サハラ砂漠以南のアフリカ地域）に存在する経済共同体の中で最も大きく、そして最もダイナミックだと知られています。また、SADC加盟国の国内総生産はアフリカ大陸内の半分を占めており、国民所得の平均は大陸平均の1.66倍以上と高いです。

去年は、アフリカ開発会議（TICAD）が初めてアフリカ大陸内で開催されました、TICADプロセスは、国際社会とのパートナーシップと同様にアフリカ諸国の開発における自助努力またはオーナーシップが重要であることを強調し、日本とアフリカ諸国の関係進展を促しました。TICADプロセスにより、より多くの日本の民間企業がレソト王国との貿易や投資に興味を持ち始めました。TICADがレソト王国の発展において大きな役割を果たしてくれたことに我々はとても感謝しています。TICADイニシアティブと国王王妃両陛下の訪日は、レソト王国と日本の産業、企業、そして政府の通商取引におけるつながりを一層強めてくれたと私は信じています。

訪日の際、レツィエ3世国王陛下は、将来日本からより多くの観光客が訪れ、沢山の日本の企業がレソト王国に進出することを望んでいるとおっしゃっていました。今日から、一冊の会の皆様をレソト王国の大使と呼ばせて頂きたいと思えます。なぜなら、国王王妃両陛下の訪日で受けたご厚意、ご支援により、皆さまと我々の国の絆が深まったと信じているからです。これからも、皆さまとの友情を深めていきたいと願っております。ありがとうございます。皆様に神のご加護がありますように。」

臨時代理大使がわざわざ足をお運びくださったうえ、このようなお言葉を頂けるとは、想像もしなかったことでした。そのお気持ちに応え、日本とレソト王国の友好をますます深めることを皆さん決意したと思えます。私たちからは、国王王妃両陛下にお約束した、訪日の記念アルバムを作成中であることを説明し、途中経過をスライドで映しご説明いたしました。

最後に、石田理事長から「今日は大槻会長が反省点をあげられましたが、どんな失敗も次に活かせば宝になる。1回限りでは意味がない、一度ついた灯は燃やし続けなくてはいけない」とのお言葉をいただきました。次につなげていく決意をするべきなのは、より若い世代、つまり我々の世代です。石田理事長を通して相馬雪香先生の鋭い視線が投げかけられているようで、身が引き締まる思いがいたしました。今回の失敗は次に活かし、そして成功に安んじることなく、レソト王国とのさらなる友好を育み、そしてレソト王国を始め FAWA を通して世界とつながり、国連と共に歩みつつ、様々な機関とつながりながら前に進んでいきたいと思えます。



漆塗りの菓子器を贈呈しました

文責：赤田（一冊の会研究員）